

KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム 2024年度 自己点検・評価報告書

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等			
学内からの視点					
プログラムの履修・修得状況	【外国語学部】				
	(履修・修了者数の状況)		2023年度入学者	2024年度入学者	
	各年度の新規履修者数	2023年度	92	—	※制度上、修了は2年次より可能
		2024年度	24	62	
		計	116	62	
	各年度の新規修了者数	2023年度	—	—	
		2024年度	51	—	
		計	51	—	
	修了率		44.0%	—	
	・1年次の履修者数が2023年度入学者では92名だったのに対し、2024年度入学者では62名に減少した(各年度の入学者は914名／921名とほぼ同数)。2024年度は新年度ガイダンスでのプログラムの紹介を行ったものの、後期の基礎演習Ⅱ開講時の案内を行っていなかったため、今後はこの点を確実に実施したうえで推移を確認する。				
・2023年度入学者の2024年度末時点でのプログラム修了率は44%にとどまる一方、未修了者65名のうち51名は修了に必要な単位を既に修得しており、各学期のはじめに登録期間を設けている資格登録の手続きを残すのみの状態であるため、当該学生へのリマインドを引き続き行っていく。					
【GLA学部】					
(履修・修了者数の状況)		2021年度入学者	2022年度入学者	2023年度入学者	
各年度の新規履修者数	2023年度	3	3	—	※本プログラムは2023年度より開設
	2024年度	3	11	9	※カリキュラム上、プログラムの履修は2年次より
	計	6	14	9	
各年度の新規修了者数	2023年度	3	2	—	
	2024年度	3	11	6	
	計	6	13	6	
修了率		100.0%	92.9%	66.7%	
・2024年度は、2023年度と比較してプログラムの新規履修者数が増加しており、学部内での認知と関心が高まっていることがうかがえる。					
・2021・2022年度に入学したプログラム履修者のほぼ全員が修了しており、学生は本プログラムで身につく力を順調に修得することができている。					
学修成果	2024年度のプログラム修了者を対象としたアンケートにおいて、本プログラムで身につく5つの力が「身についた」「ある程度身についた」と回答した学生の割合は以下の通り。				
	1. デジタル情報やAIの特性を説明することができる				88.5%
	2. データやAIが社会の中でどのように活用されているかを説明することができる				84.6%
	3. 適切なツールを用いて具体的なデータの処理・分析を行うことができる				73.1%
	4. 具体的なデータを分析した結果を他者に説明することができる				73.1%
	5. データやAIの活用におけるリスクや留意事項を説明することができる				80.8%
	いずれも7割以上となっており、本プログラムが目指す学修成果をあげることができていると考えられる。ただし、データの処理・分析に関する力(3・4)の割合がやや低い点については今後の推移を注視する。				

学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度	各科目の授業評価アンケート結果は以下の通り。 【外国語学部】 内容を「理解できた」「まあまあ理解できた」と回答した学生の割合（括弧は2023年度の結果） 基礎演習Ⅰ：84.2%（84.8%） 基礎演習Ⅱ：72.5%（66.5%） 【GLA学部】 到達目標を達成できたかについて「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合（括弧は2023年度の結果） デジタル・シチズンシップ論：92.5%（100%） 数的思考法：96.6%（96.4%） データ・サイエンス概論：72.2%（72.2%） 統計学Ⅰ：88.5%（83.3%） 統計学Ⅱ：100%（100%） いずれの科目においても多くの学生がその内容を理解できていると考えられる。また、基礎演習Ⅱや統計学Ⅰでは昨年度と比較して学生の理解度が向上している。
学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度	2024年度プログラム修了者を対象としたアンケートでは、「本プログラムの履修を他の学生や後輩に推奨したいか？」との質問に対して80.8%の学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。 また、授業評価アンケートにおいて、各科目の総合評価として「評価する」「ある程度評価する」と回答した学生の割合は以下ようになっており、いずれの科目も学生からの高い評価を得ている。 これらのことから、本プログラムの履修について他の学生にも推奨されることが期待できる。 （括弧は2023年度の結果） 【外国語学部】 基礎演習Ⅰ：91.8%（91.8%） 基礎演習Ⅱ：85.6%（85.9%） 【GLA学部】 デジタル・シチズンシップ論：100%（97.0%） 数的思考法：96.6%（92.9%） データ・サイエンス概論：94.4%（91.7%） 統計学Ⅰ：93.1%（97.0%） 統計学Ⅱ：100%（100%）
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	昨年度より行っている学生用ポータルサイト、大学ホームページ、各授業における担当教員からの情報提供に加え、2024年度からは新年度のガイダンスでも周知を行った。「プログラムの履修・修得状況」の記載とも関連するが、今後はより効果的なタイミングを見極めながら、これらの周知を継続していく。 また、2024年度プログラム修了者を対象としたアンケートでは、11.5%の学生が本プログラムを「先輩・友達で紹介で知った」と回答しており、今後この割合を増やしていけるよう、引き続きプログラムの満足度向上に努めるとともに、学生にも働きかけを行っていく。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の 進路、活躍状況、企業等の 評価	2024年度に卒業した修了生5名のうち、2名の進路は大学院進学、1名は大学院進学準備中、1名は情報・通信系企業への就職となっており、本プログラムで学んだ内容や身につけた力が活かされるものと考えられる。
数理・データサイエンス・AIを 「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	2024年度プログラム修了者を対象としたアンケートでは、80.8%の学生が、プログラムを通じてデータサイエンス・AIについて学ぶ楽しさや意義を「感じた」「やや感じた」と回答している。また、「プログラムで学んだことは将来の進路や社会生活に活かすことができそうか？」との質問に対しては92.3%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。 これらのことから、多くの学生が「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を感じていると考えられる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業評価アンケートの「教員の説明は分かりやすかったか」という質問に「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は以下の通り。（括弧は2023年度の結果） 【外国語学部】基礎演習Ⅰ：90.4%（88.7%） 基礎演習Ⅱ：90.9%（85.0%） 情報基礎Ⅰ：82.0%（－） 情報基礎Ⅱ：84.9%（－） 【GLA学部】デジタル・シチズンシップ論：100%（100%） 数的思考法：100%（100%） データ・サイエンス概論：83.3%（80.6%） 統計学Ⅰ：93.1%（89.4%） 統計学Ⅱ：100%（100%） いずれの科目も概ね分かりやすい説明が行われているが、学生からの質問が多かった点などはその教授方法について随時見直しを行う。